

第5回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和2年12月18日(月) 午後1:30～

終了 午後3:10

会 場 文化センター2階 中公ホール

1 開 会

2 あいさつ

教育長あいさつ

会長あいさつ

3 事務局からの資料説明

4 協 議

(1) 各委員からの情報提供

○委員長

我々の会というのは、個人的な意見ということも含まれますけれど、それぞれの立場の代表であり、地域の方々の声も反映させていきたいというようなことから、前回、皆様にお諮りしたところですが、何か前回からこれまで、またはその前でも結構でございますけれども、特に声として、こういうことがあると、いうことがございましたら、ぜひ聞かせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。地区の方などどうだったでしょうか。

○委員A

地区では特別、集まったりはしてなくて新しい学校なので残してほしいなど、いま特認校なのですが、あまり特徴のない特認校なので、もっと特徴を付けた特認校にして、残してほしいというのがほとんどでした。

○委員長

ありがとうございます。委員さんはいかがですか。

○委員B

地区の皆さんを集めて、意見をいただいたということはないのですが、地区の役員の方々から意見を聞きました。その中では、やはり中学校だったら、1校が適正なんじゃないかなという意見になりました。この委員会でも進めているとおり。小学校は、自分のところは残るんじゃないか、それは柴橋小学校なので、残るんじゃないかという意識があったんですけど、「いろんな案が出ていて、統合したらいいんじゃないかとか、まとめて別の学校を新たに作る案も出ていて、今から話し合いをするんだ」と話したら、やっぱり地元としては、今度柴橋の保育園が新しくなるんですが、小学校と保育園と公民館が一つの場所に一体となって活動をしたいという会だったんです。「そこで小学校が他の場所に移るといって、決定でないんだけど、そういう案も出ている」「そうか、そうだったらちょっと残念だな」という、役員会などでの考えとか、意見まで行かないんですが考えがあって、もし市の意向がそういうことであれば、そうなった時

には、やっぱりみんなで協力していくしかないんだろうね、という前向きな方向で考えている役員が多かったようでした。

○委員長

ありがとうございました。多くの声をお聞きした訳ですけれど、その他の立場の方々は、特に大きくそういった話し合いをする機会もなかったのかなと思います。他にございますか。もしなければ、それぞれのグループの中で、それぞれ出していただきながら、グループ討議を進めていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

では、今、1時47分になろうとしています、だいたい40分くらい話し合いをしていただいて、そして前回のように図に表していただければ、なおありがたいかなということで、準備されているようですので。それでは、よろしくをお願いします。

(グループ討議)

(グループ発表)

○委員長

それでは、予定の時間になりましたので、グループ発表、全体協議ということで進めていきたいと思えます。名簿に進行役と発表役が書いてございますので、大変ですけれども発表役の方、よろしくをお願いします。それでは、Aグループの方からお願いしたいと思えます。

○委員C

Aグループと申します。PTAの立場と、住民の立場、いろんな立場で話し合いをしてまいりました。まず、第1案としては、醍醐小学校を特認校として残す案、本楯地区を南部小に入れてしまって中部小で一つ、寒河江小と南部小と中部小から来た本楯から来た子どもたちを入れて一つ、西根小と柴橋小と高松小と白岩小と三泉小で、まあ、外側の地域という変ですけど、その学校を合わせて一つになります。ただこの場合、醍醐小と中部小は校舎がそのまま使えますけれど、他の、3番目、4番目の学校は人数的にも新しい校舎が必要であろうということです。第2案のところでも本楯地区の飛び地を解消する案として入っているんですけど、今本楯地区から通っている子どもたちは、50人くらいいますので、そこのところで50人を、中部小から外してしまうことで、中部小のマンモス化を防ぐ意味合いもあります。それで、今本楯地区から通っている子どもたちは、7時くらいに家を出ないと学校に間に合いません。7時30分くらいに起きても間に合うんですが、そのあたりの、通学路の遠い本楯地区の子どもたちの、解消案にもなるのではないかと考えています。

それから第2案ですが、先ほどと同じように本楯地区を含めた寒河江小と南部小で1つ、あと中部小は本楯地区を除いた形で1つ、あと西根小と三泉小と醍醐小で一つ、柴橋小と高松小と白岩小で1つ。ただこうなりますと、新しい学校を3つ作らないとなくなるので、その辺の財政的な点で、どうかなあ、という所で不安もあります。で、どちらの案にしましても、一緒になる学校の子供達、地域の人たちの、感情的な問題を解消するためにも、数年かけて一緒に、合同の何か、お楽しみ会をしてみたり、一緒のお勉強会をしてみたり、数年かけてようやく一つの

学校を作っていくということを、ぜひしていただきたいと思っています。それで、どちらの案にしましても、いきなり「何年後か、ここの学校は一緒になってしまうんですよ」といってしまうと、びっくりされてしまうと思うんです。ただ、そのことの危機に対する意識が高いのは、やはり三泉ですとか、白岩、高松あたりで、だんだん子どもたちの数が少なくなっているのが目に見える学校、小規模校の人たちは、納得というか、しょうがないかなあ、と思ってくださると言うに変ですけど、そこは住民とか子どもたちの感情としても、だんだんとうまくいくのかなあと思いますけど、例えば、寒河江小ですとか南部小ですとか柴橋小とか、人数的ある程度いる学校がびっくりすると思うんですね。それで、前回先生方の班で出た「5校案」というのは、とてもソフトランディングで、無難で、いいのかなあと思いますけれども、さらに何年後かには子ども達の人数がさらに減ってしまうということで考えると、長い目で見れば、第1案、第2案をするのがいいのかなあと思います。それで、話が戻りますが、本楯地区のことに関しては、この機会にやっしまわないと、ずっといつまでも本楯地区が飛び地ということで、残ってしまうので、これを機会に、学区も変えてしまった方がいいのではないかと思います。ただ、どのような学校編成になるにしても、ただの数合わせで学校を作るのではなくて、地元の方と学校を作っていく、子どもたちがこの地元で育っていくんだという、子どもたちの心の成長も鑑みまして、コミュニティとして地域とのつながりを大切にした学校経営をお願いしたいと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございました。他のグループの方から質問ありませんか。特に、本楯地区の子ども達を従来の学区に戻すというか、変な話ですけど、そここのところは、この際だからやっていかないと、というご意見だったと思います。続いてBのグループお願いします。

○委員D

結論的に言うと、出し合っただけで、なかなかまとまらなかったというのが正直なところですよ。5校、4校、3校というふうに書いていますが、全体として、それができるのかどうかも含めながら考える、あと、新しいものを建てるかということ、前提として考えられるのかということ、少し難しい所もある、と言いつつ、今回はやっぱり、校数を決めるという話だったので、やっぱり「段階的に」という話は出ました。段階的にする際もいろんな意見があって、保護者としての意見、地域としての意見もあると思いますが、保護者としての意見を大事にもらうような形での、寒河江市としてのビジョンをもって、理解をしてもらう、というふうにしていかないと、どうしてもまとまっていけないんじゃないかな、という話になっています。ただ、3校、4校の中では、段階的ではなくて、1度にしてもらった方が、住民の方の気持ちもそうだし、親の方もそうだし、1回でみんな同じ条件で「こういうふうにしますよ」というふうにしてもらった方がいいんじゃないか、というようなことでした。まあ、5校、4校、3校というのは、Aの方で話し合われたみたいですが、一応一番少ない、4校であるとする、ここからこことか、前回の流れもあるようなのですが、寒河江小と南部小と。柴橋小は1校にして、川沿いで1校とかね。そうしないと、みんなこの辺は少なくなっていく、という事情があるので、たぶん少なくならないだろうというのも1校入れて。というふうな考えが出ました。

○委員長

ありがとうございました。ご質問などお願いしたいのですが、いかがですか。ちょっと確認ですけれど、3校にしても、いずれの案にしても、「一斉にやる」というお話でした。

○委員D

一斉にという案も出ました。

○委員長

その方が、保護者の方のとらえ方が、ふん切りがつくというか、理解が得られやすいだろうということだったと。

○委員D

段階的だと、その都度、理解してもらわないといけないので。

○委員長

あと、3校、4校、5校にしても、学区はいじらないということですね。今の学区を分割するというでなくて、今の学区は維持しながら、一緒にしていくというふうな考え方でよろしいんですね。

○委員D

そこまでは、話し合いになっていません。

○委員長

分かりました。非常にいろいろな問題があり、考えれば考えるほど、なかなか1つの方向性というのは見えにくい、という形ではあったと思います。ありがとうございました。続いてCグループからお願いします。

○委員E

よろしくお願いたします。Cグループであります。前回の各班の発表をもう1回見直しました。とてもいい案で、素晴らしい考え方だなということで見えていたんですけども、やっぱり、現状、そして課題、そして今後のこと、あとメリットデメリット、という視点で考えまして、結論といたしましては、令和10年4月に、まだ名前決まっていますが、例えば、「統合中学校」ということで、中学校を1つにするということを考えて時に、もうこれだけで、すごい大事業でありますので、ほかに小学校も再編ということで、同時期に3校くらい、新しい小学校も同時に作るということは、ちょっと、現実的に難しいのではないかと、ということを考えました。現在小学校は、9校ありますけれども、まず優先順位といたしますか、人数的にも校舎的にも「まだ大丈夫だ」という所には手をかけなくて、人数的に少なくなると何かしなくてはならない、そして校舎も古くなって何かしなくてはならないという、そういう所だけを、手をかけるというふうなことを考えました。具体的には、寒河江小、中部小、南部小、柴橋小はそのままとして、西根小

と三泉小を合わせる。そして高松小、醍醐小、白岩小を合わせるというふうなことで、9校から6校に。これを令和10年4月の中心中学校の開校までにまとめるという案です。統合中学校の開校までに相当な、準備や負担があると思いますので、それだけでも一大事業なんじゃないかという考え方です。そして、中学校が1つになることで、これまでの小学校の学区の考え方も、ちょっと変わってくるのではないかなと。例えば、陵南中に入りたいから、そのためには、陵南の学区の小学校のアパートに入ってとか、そういった考えが、中学校が一つになれば、市内どこにいてもみんな同じ学校に行ける、いうことであれば、「地元の小学校のままで、いいんねがあ」という考えも出るのではないかと、いう考えです。そして、小学校につきましては、この新しい中学校が出来てからの人口動態というの、大分影響があるのではないかと、いうことで、しばらく様子を見て、それから再編というふうにした方がいいのではないかと考えました。ただ、いきなり令和10年で中学校が出来て、そしてすぐに小学校再編というふうには、なかなかならないと思いますので、少し前から、小学校のあり方を検討する「あり方懇談会」という会も立ち上げて、同時並行的に進めていくと。そして、中学校を開校するためには、開校するための委員会と言うものも必要でないかなと考えました。やっぱり新しい学校が開校するには、市も相当の財政負担が必要ですし、市民の意識といいますか、理解、こうみんなで新しい学校を盛り上げていくんだよ、みんなの学校だよという気持ちを盛り上げていかないと、なかなか難しいのではないかと、いうことで、小学校のあり方というの、継続して、検討してはいかかなと考えました。今後の小学校の体制ですが、校舎の老朽化ですとか、生徒数なども見ながらですけども、改めて仕切り直しをして、例えば令和15年に、さらに統合をして新しい学校を建てるとか、令和20年に建てるとか、段階を踏んでいくというのがよろしいのではないかな、という考えです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。町の財政と言うものを視野に入れながらの、提案だったわけですけど、令和10年にはまず統合中学校を立ち上げるべきではないか、ただし、小学校の場合は、なかなか財政的にも同時に行かないから、その後も含めて検討して行って、令和15年とか令和20年とか、中期計画でやっていったらどうか、という意見だったと思います。一つ伺いたいのは、地域の方には、どの段階で方向性を示せばいいんですかね。この段階で「もうこの方向性で行きますよ」というべきなのか、「小学校はもう少し待っててね」というふうにいうべきなのか、その辺どうですかね。

○委員E

先ほどお話ししましたが、喫緊の課題ということで、三泉小学校、高松小学校、醍醐小学校、白岩小学校の児童数がぐんぐん少なくなっているということで、これは大きな課題であると思いますので、そこへの対応というのは、中学校開校前までに進めたいということで、その中学校の発表する時には、こちらの進め方というの、同時に発表していただく必要があると考えます。

○委員長

先ほどのグループ討議の時に、「陵西中学校区の小学校では、家を2世帯住宅で建てたいんだけ

ど、息子の将来的なことを考えると、少なくとも、陵西中学校区の小学校に入れるのは心もとない。だから、違う所に住んだ方がいい」というような声が出ているという現実がある訳です。そういう声があると、次々と「私もそうだね」ということで、歯止めが効かなくなってくるということもある。ある意味、中学校統合、小学校統合ということの方向性を示唆していかないと、とてもじゃないけれど、どんどんとってしまう危険性がある、ということでもよろしいですよ。はい、ありがとうございます。では最後に、Dグループお願いします。

○委員F

ここに書いてある通りですけれども、基本的には地域を変えないで、地域住民が子どもを育てていきたいと思いますというスタンスで、やったらいいんじゃないかという考えに立っています。それで、寒河江小、南部小、西根小というところで、ちょっと中学校区が混在しているところがあるんですが、一応、中部小と柴橋小、寒河江小と南部小と西根小、醍醐小、白岩小、高松小というふうに考えています。で、三泉小ですが、人数的には、こっち（陵西学区）に入れた方がいいと思うんですけども、三泉の地域の方が馴染んでくださるか、という所が読めなかったので、真ん中に書いてます。人数的には、900、1000、300なので、こっち（陵西学区）に入れた方がいいと思うのですが、その辺は丁寧な説明という所で、今、止まっています。こうなった理由ですけれども、学校の年数が古いということで、グラウンドに建てるということができないんですね。北側にグラウンドができてしまうと、そういう問題があるので、どこかに土地を取得して、新築、新築、ここ（陵西学区の統合校）は、悪いんですけど、既存と考えています。そこら辺は、市の財政というのが分からないので、一応希望としての考えです。あとは、スクールバスをぐるぐる走らせてほしいという希望です。この考えが、私たちの考えだったのですが、現実的かどうか分からないのですが、基本的には、地域住民と子ども達をセットにしたいという、そこは変えないで行きたいという願いです。

○委員長

ありがとうございました。3校案ということで、三泉小をどちらの方に入れるかということが問題だということですよ。ただ要件としては、地域を大切にしたいと、だから既存の学区をいじらないと。あとスクールバスの運用をしていただきたいということ。あと新築、新築といったときに、市の財政が持つかどうか、ということ、まあこれは、後で市の方が検討されると思いますが。それでは、短時間にプランニングしていただきまして、ありがとうございました。一応、このプランを整理していただいて、1回目のプランニング、2回目のプランニング、そして今度どうするかということで、どんどん煮詰めていければと思っております。短時間の間にありがとうございました。時間も3時になっておりますので、協議はこれまでにしたいと思いますが、委員の方から何かありますか。

○委員G

前回と今回ということで、何校にするかということで話が出ていますけれども、だいたいこの辺の中から、前回のも含めて決まってくるんだろうなと思ってはいるんですが、私ちょっと気がなりました。まあ、何校にするかはともかくとして、実際その学校が新しくなった時

に、また合併した時に、その子どもたちに「こういう教育があるんだよ」とか、あるいは親たちに「この学校は、こんな学校になるんだよ」といった部分の話し合いがなっていない気がして、本当は、学校というのは子どもたちに、どういうふうな教育を、まあ、勉強だけでなく、集団生活であったり、地域の祭りに関わることであったりとかを含めて、話し合いの中に出てこないなど、気になっていたんです。1回目の時に確か、「夢のあるような学校を作ってほしい」と、「あそこの学校に入りたいんだ」というような学校を作ってほしいというような、言葉だったと思うんですが、ぜひですね、その学校に通うのは子どもたちであって、まあ、地域皆さんの意見も必要でありますし、地域の皆さんの気持ちというものもあると思うんですけれども、本当のところは、子どもたちの部分が、話し合いに出てきて、「だから、こんな学校にしないといけないんだ、基本にしないといけないんだ」なんてところを話し合ってもいいのかなと、思ったんですけれども。意見でした。

○委員長

ありがとうございました。本当に大切なところだと思います。

○軽部教育長

今、委員からあったことは、最も大事な視点だと思います。まあ、今回と前回と、さらにもう1回を、「学校数をどうするか」ということで、ある程度テーマを絞らないと議論が焦点化していかないのではないかということで、テーマを設けさせていただいてやってきたわけですが、1番外せないのは、今、委員からあったような、「どういう学校にしていくのか」という大事なビジョンというものを共有化して、「だから何校にしていくんだ」ということが必要なのだと思いますので、後で事務局から、次回の計画日程についてお話しさせていただきますけれども、一回立ち止まって、学校のあるべき姿といいますか、「寒河江市内学校は、こういう学校にしたいよね」ということを確認して、さらにそれを踏まえて、学校の数をどうしていくかという、やはり魅力的な学校にするためには統合した方がいいとか、こういう学校は大事にしていきたい、というようなところで進めていきたいと思いました。今の、一番大事な外せない視点だと改めて思いましたので、後で日程を説明させていただきますけれども、その点をもう1回議論して、進めていきたいと感じたところでした。

○委員長

ありがとうございます。とても大切な問題かと思います。どうしても、まだハード面だけでお聞きしました。いわゆる「畑だけを見て、果実を見ていなかったのかな」ということを、思い知らされました。今、教育長さんからあったとおり、その辺を次回掘り下げながら、同時に検討しながら、学校の数というものを加えていければということで、お話ししたいと思います。ありがとうございました。それでは、協議のその他、ございませんでしょうか。

○事務局（学校教育課 佐藤課長補佐）

事務局から、その他ということで提案させていただきたいと思います。実は先日、寒河江市議会の議員から「この会を傍聴させていただきたい」という要望が寄せられました。以前は、新聞

記者が入っていたという経過もあるのですが、地域を代表する方ということもありまして、すぐにはということでは、お受けしていないのですけれども、今のところ、お二人の方から要望があったのですけれども、さらに、見たいという声が出てくるかもしれませんので、傍聴ということにはなるかと思うのですが、実際に見にいっちゃっても良いかどうかという点だけ、ご確認いただければと思います。

○委員長

この会については、とくに傍聴に関して規定しておりませんでした。ですので、要望が出てきたからの話になるのですけれども、委員の皆様の見解を伺った後で、決定したいということですので、この場で皆様の御意見をお伺いしたいと思います。まあ、今回は特に、市議会議員の方からの要望ということですが、それも含めて傍聴を認めるかどうか、ご意見をどうぞ。難しい問題かと思いますが、私の個人的意見から申し上げますと、今申しあげました通り、初め新聞記者がいっしょにいました。そして記事にもなりました。そんなことからいうと、それ以外の方々を断るとするのは、なかなか難しいのではないかなと思います。もう一つは、クリスタルな、いわゆる市民開放的なことでやっていくなれば、何ら問題はないかなと思うんですが、ただ、委員の方々が、話しづらくなれないかということですね。特に議員の方が来た時に、「誰それが、こんなことを言っていたんだ」なんてことはないとは思いますが、そういう問題が少し出てくるかなということですが、その辺を含めてご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○委員C

先ほど、A班の中でも話になったのですけれども、これが決定事項ではなくて、答申であるということと、あと、この会の性格上、この前教育長からもありましたけれども、いろんな人の意見を聞いてみてほしい、ということで、別に密室で話し合っている訳ではないので、公開する分には構わないと思うんですけれども、決定事項ではなくて話し合いの場だということを理解してもらえるのであれば、議員さんに来ていただいてもいいのではないかと思います。

○委員長

ご意見ありがとうございます。今のおおりの、これは決定している訳ではありませんので、本当に、我々自身が紆余曲折している訳ですので、その経過を見ていただく分には何ら問題はない。ただ、それをもって、どうだということを使っていただくということのないようなことをお約束いただければ、よろしいかなという感じがするのですが。他にご意見ございましたらどうぞ。よろしいでしょうか。頷いている委員さんもいらっしゃるの、一応、この会としては、先ほどのような条件付きで、特定してはいけないとか、断定してはいけないというようなことを申し上げた上で、聞いていただくということは許可するというので、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、そのようなことで対応していただければと思います。事務局さんよろしく申し上げます。それでは、この辺で協議を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。